

明治時代～

古都の風情と詩的な文化が漂う市民のまちへ

1868（明治元）年、明治政府の誕生によって、欧米からさまざまな文化が急激に取り入れられました。東京医学校に招かれたドイツ人医師・ベルツ博士が、医療としての海水浴に適した地として鎌倉を紹介。これがきっかけとなり、時の衛生局長・^{なが よ せん さい}長與専齋の尽力によって、1887（明治20）年には日本初のサナトリウム「^{かい ひん いん}海濱院」が開設されます。その同年に東海道線、翌々年に横須賀線が開通。古都の風情と、別荘地や保養地としての素質に、交通の便が加わった鎌倉を求めて移住する人々が急増しました。温暖な気候と執筆活動にふさわしい環境を求めて東京から、名だたる文人たちも鎌倉へと移住。彼らはやがて鎌倉文士と呼ばれるようになり、鎌倉の文化的なムードをより濃くしていきました。また、戦後の高度経済成長期に起こった市民運動「^{お やつ そう どう}御谷騒動」に象徴される文化と自然を守ろうとする市民意識は、鎌倉らしさとして今も受け継がれています。

1869^{めいじ}（明治2）年

かまくらぐう

鎌倉宮

秋の風物詩「鎌倉薪能」の舞台

祭神は^{もりなが}護良親王。鎌倉幕府の討幕に活躍しましたが、幕府滅亡後の混乱の中で幽閉され、非業の死を遂げました。明治天皇は親王の遺志をたたえ、幽閉された東光寺跡地に神社造営の勅命を発するとともに、「鎌倉宮」と命名しました。

境内で毎秋開催される「^{かまくらたきぎのう}鎌倉薪能」は季節の風物詩として知られ、作家の立原^{たちばら}まさあきが、小説『薪能』を著すなど、文士の創作の舞台にもなりました。



^{こんばるそう け}金春宗家をはじめ一流の演者たちが能や狂言を演じる

鎌倉を深掘り

貸本屋から大学まで。文化復興を担った鎌倉文士たち

1889（明治22）年の横須賀線開通により、古都鎌倉は保養地として人気を博し、多くの文学者が訪れました。関東大震災以降から昭和にかけては、東京から一部の文学者が移住。彼らはやがて「鎌倉文士」と呼ばれるようになり、文芸・文化の発展の一翼を担いました。

戦中の1945（昭和20）年には、久米正雄、川端康成、高見順らが中心となり、切迫する暮らしを打開すべく、自らの蔵書を集めた貸本屋「鎌倉文庫」を開店。空襲警報の合間を縫って客が殺到するほどの人気で、戦後には出版社「鎌倉文庫」を立ち上げました。さらに、有志の市民が光明寺を仮校舎に戦後開校した「鎌倉大学校」（のちに「鎌倉アカデミア」）では、文学者も教壇に立ちます。自由な人間づくりを目指し、多くの若者たちがここで学びますが、わずか4年で閉校しました。



店前に掲げられた鎌倉文庫の看板。作家・里見弴が書いたもの
鎌倉文学館蔵

暗い時代のなか、鎌倉を愛し、描き、文学都市へと高めた鎌倉文士たち。その自由闊達な精神は、かつての鎌倉武士の「独立自尊」の矜持そのものといえます。その精神は現代へ引き継がれ、新世代の文学者たちが活躍しています。



漫画家・清水崑が当時の店の様子を描いた『かし本や鎌倉文庫繁盛図』
鎌倉文学館蔵

1908^{めいじ}(明治41)年

きゅうもろ と てい

旧諸戸邸

住宅街にある明治期の小さな洋館

株式仲買人^{ふくしまなみぞう}の福島浪蔵の別邸として建てられ、後に実業家の諸戸清六^{もろとせいろく}が所有。1980(昭和55)年に鎌倉市が取得し、子ども会館としても利用されていました。明治期の住宅建築の貴重な遺構であり、ギリシャ建築の様式を取り入れたバルコニーなど、外観の繊細な装飾を見ることができます。



膨らみを持った柱身などにもギリシャ建築の様式の意匠を見ることができる

1916^{たいしょう}(大正5)年

こ が てい

古我邸

かつては著名人や政治家も住んだ豪邸

鎌倉文学館、旧華頂宮邸と並ぶ鎌倉三大洋館のひとつ。三菱合資会社の専務理事^{しょうせいじろう}だった荘清次郎の別荘として約15年を費やして建てられ、関東大震災直後の対策会議はここで開かれました。1937(昭和12)年には日本土地建物の経営者・古我貞周^{さだちか}が取得。元首相の濱口雄幸^{はまぐち おさち}や近衛文麿^{え ふみまろ}も別荘として利用し、現在はレストランとして活用されています。



設計は旧三菱銀行本店などを手がけた建築家の桜井小太郎

鎌倉を深掘り

日本初のサナトリウムから始まった海水浴

ドイツ人医師・ベルツ博士と当時の内務省衛生局長・長與専齋^{ながよ せんさい}は、鎌倉を避暑・避寒・保養の適地とし、医療としての海水浴＝潮湯治を推奨しました。鎌倉が海浜保養地として知られる先駆けとなったのは、1887(明治20)年に由比ガ浜につくられた日本初のサナトリウム(療養所)・「海濱院」^{かいひんいん}。潮湯治は決まった時間に海に入ることを繰り返すものでしたが、1885(明治18)年に、長谷にあった三橋旅館が『東京横浜毎日新聞』に「海水浴御馳走^{かいすいよく ごちそう}」という広告を掲載し、さらに1888(明治21)年には「海濱院」が海水浴客や外国人客を受け入れる「海濱院ホテル」へ衣替えしたことから、瞬く間に海水浴はレジャーとして定着しました。

1918^{たいしょう}(大正7)年

しん れいきょうかま くら れん せいじょうれい げん かく

神霊教鎌倉錬成場霊源閣（旧山本条太郎邸）

関東大震災前別荘建築の希少な現存例

実業家・政治家として活躍し、南満州鉄道総裁を務めた山本条太郎の別邸として建てられました。京都の吟味された資材を用い、京都の大工がその力量を発揮した、優れた京風数寄屋建築です。標高40mの高台にあり、庭からは由比ガ浜が一望できます。関東大震災以前の貴重な別荘建築であり、別荘での生活ぶりが推量できます。昭和57（1982）年に神霊教が取得し、「鎌倉錬成場霊源閣」と名付けられました。



京間が使用された数寄屋造りの大広間。母屋などは平成28年に登録有形文化財に登録された。

1926^{たいしょう}(大正15)年

いし かわてい さと みとん

石川邸（旧里見弴邸）

作家・里見弴の理想が詰まった邸宅

作家・里見弴が自ら設計に関わった邸宅で、洋館部分は建築家のフランク・ロイド・ライトの造形を取り入れたもの。渡り廊下で繋がった別棟は茅葺きの日本建築で、茶室として使われていました。1936（昭和11）年に里見氏が転居した後は、所有者は数度変わり、一時期ホテルとしても用いられ、その後石川氏の住宅となりました。



ポーチが印象的な洋館。
奥の日本家屋とのコントラストも魅力



療養所から衣替えした当時の「海濱院ホテル」

1927^{しょうわ}(昭和2)年

みかわやほんてん

三河屋本店

戦前の風情が残る老舗酒店

1900(明治33)年に創業した老舗酒店で、現在の建物は創業者の竹内福蔵^{たけうちふくぞう}が、関東大震災で倒壊した際に建て替えたもの。若宮大路の沿道でもひととき目を引く重厚な商店建築は、軒が大きく前面に張り出した伝統的な出桁^{だし}造りが特徴。敷地の奥には蔵があるほか、店脇には酒を倉庫に運搬するためのトロッコとレールが残ります。



複雑に重なる屋根と長大な差し鴨居を備えた風格ある佇まい

鎌倉を深掘り

忘れがたい青春期を過ごした芥川龍之介

1892(明治25)年～1927(昭和2)年

東京帝国大学卒業後、作家になることを志し、横須賀の海軍機関学校で英語の教師をしていた芥川龍之介^{あくたがわりゅうのすけ}。1916(大正5)年～1917(大正6)年には海濱院ホテル近くの由比ガ浜に下宿し、1918(大正7)年から約1年間、元八幡近くの借家で新婚生活を送りました。俳人^{たかはまきよ}の高浜虚子^しら鎌倉に住む文学者たちと親交を深めたこの時期は、『地獄変』『蜘蛛の糸』『奉教人の死』などを発表した充実期でもあり、当時の生活を綴った書簡も多く残っています。人気作家となった芥川は、その後東京・田端の家に戻りますが、次第に健康状態が悪化。自ら命を絶つ前年には、「鎌倉を引き上げたのは一生の誤りであった」と語ったといわれています。



新婚時代を過ごした鎌倉大町(現在の材木座)の書斎

1929(昭和4)年

樺亭

深い緑と庭園に囲まれた鎌倉山のシンボル

昭和初期に高級住宅地として鎌倉山の分譲を行った菅原通済すがはらつうさいの父であり、鉄道事業家として知られる菅原恒寛つねみの別荘だった建物。

本館の和洋折衷の重厚な日本家屋は横浜の養蚕農家から、玄関部は鎌倉手広にある青蓮寺しょうれんじ(鎖大師)から移転改築しました。禅宗様意匠を取り入れた四脚門の山門は、鎌倉西御門にあった高松寺こうしょうじが宮城県に移転する際に移築したものです。本館と山門は国の登録有形文化財となっています。現在は、蕎麦・会席料理店として知られています。



和室と、ステンドグラスを飾る洋室が混交する和洋折衷の別荘建築

1929(昭和4)年

旧華頂宮邸

昭和初期の洋館とフランス式庭園を散策

緑深い衣張山東側にある、華頂博信侯爵邸として建てられた洋風住宅です。その後たびたび持ち主が変わり、1996(平成8)年に鎌倉市が取得しました。ヨーロッパの民家などに見られるハーフティンバー様式の建物で、柱・梁などが外部に現れる趣あふれる外観が特徴。樹木や池を幾何学的に配置した美しいフランス式庭園を併設し、季節の花を楽しみながら散策が楽しめます。また、敷地奥には1971(昭和46)年に、当時住んでいた松崎氏が東京・上大崎の自宅から門と茶室を移築した「無為庵」があり、旧華頂宮邸の建物内部と合わせて春・秋の数日間のみ一般公開されています。



往時の華やかな暮らしを彷彿とさせる洋館と幾何学式庭園



1929^{しょうわ}(昭和4)年せん こ さん そう
扇湖山荘こうよう
桜や紅葉が美しい庭園も見どころ

杉木立から望む相模湾が扇形の湖に見えることから名付けられた山荘は、製菓会社「ワカモト製菓」^{なが おきん や}創業者の長尾欽彌が飛騨高山から移築・改築させた建物で、美しい日本庭園も圧巻。



母屋は木造2階、地下1階の構造。2階には接待用のサロンがあった

鎌倉を深掘り

ぶんがくかい
鎌倉文士の前夜となった「文学界」

戦争の激化と社会不安、言論の弾圧、そしてプロレタリア文学作家・小林多喜二^{こばやし た き じ}の虐殺。1933(昭和8)年、そんな時代背景のなか、小林秀雄^{こばやし ひでお}、林房雄^{はやし ふさお}、川端康成^{かわばた やすなり}、深田久弥^{ふか だ きゅうや}らの文士たちは文芸復興を目指し、政治や党派性にとらわれない雑誌「文学界」を創刊しました。モダニズム文学で知られる新感覚派の川端^{よこみつ り いち}や横光利一^{しま きけんさく}、フランス近代文学に影響を受けた小林や島木健作^{しま きけんさく}らプロレタリア文学からの転向組など、多様な文学の流れを映した雑誌には、文士の自由な気風と純粋な文学精神が宿っていました。川端は「編輯後記」で、「時あたかも、文学復興の萌あり」と書いています。



「文学界」創刊号。発行は文化公論社で、後に文藝春秋社に移った

1936(昭和11)年

かまくら ぶん がく かん

鎌倉文学館（旧前田家鎌倉別邸）

鎌倉ゆかりの文学者たちの足跡を辿る

相模湾を一望する高台にある建物は、旧加賀藩前田家第16代当主・前田利為^{まえ だ としなり}の別邸として建てられたもの。第二次世界大戦後には、デンマーク公使や佐藤栄^{さとう えい}作^{さく}元首相が別荘として使用したほか、作家・三島由紀^{みしま ゆき}夫^おの小説『豊饒の海』の第1巻『春の雪』に登場する別荘のモデルにもなりました。その後は鎌倉市が譲り受け、1985（昭和60）年に鎌倉文学館として開館。初代館長は作家の永井龍男^{なが い たつ お}が務めました。国登録有形文化財である格調高い建物は、西洋の木造建築ハーフティンバー様式とスパニッシュ様式を基調とし、館内には華麗なアールデコの装飾が残っています。本館前には広大な庭園と美しいバラ園があり、季節には「鎌倉」「流鏑馬^{やぶさめ}」など鎌倉ゆかりの名がついた珍しいバラも見どころです。※大規模改修のため休館中。



春のバラは5月中旬～6月下旬、
秋は10月中旬～11月下旬が見ごろ

さとう えい さく
佐藤栄作

1901（明治34）年～

1975（昭和50）年

第61～63代の内閣総理大臣
を務め、1964（昭和39）年から

旧前田家別邸を別荘として利用。3階のバルコニー（現在非公開）では、施政方針演説前日の夜中に演説の練習をしていたとか。鎌倉文士とも親交が深く、小林秀雄^{こばやし ひでお}、永井龍男^{なが い たつ お}、川端康成^{かわばた やすなり}らが訪れて共に食事をしたこともあったそうです。

みしま ゆ き お
三島由紀夫

1925（大正14）年～

1970（昭和45）年

川端康成^{かわばた やすなり}の推薦で「煙草」を發表し、本格的に文壇に登場。以来

二人は深い親交を結び、三島は長谷の川端家をたびたび訪問しました。作家の集い「鉢の木会^{こえ}」や文芸誌「聲^{こゑ}」のメンバーとして中村光夫^{なかむらみつ お}ほか鎌倉文士たちと交流。小説『春の雪』執筆のために旧前田家別邸を訪れています。



1936^{しょうわ}(昭和11)年

ゆ あさ ぶつ さん かん

湯浅物産館

横浜の建物を模したレトロな“看板建築”

貝細工の製造加工・卸売店として1897(明治30)年創業。アーチ窓が印象的な建物は、関東大震災後の1936(昭和11)年に建てられたもので、木造建築の正面に洋風の装飾を施した「看板建築」の代表格。創業者の湯浅新三郎^{ゆ あさしんざぶろう}は、“火災に負けない頑丈な建物を”と、大工を横浜に連れていき、現地の貿易商社を模してつくらせたそうです。



現在も、カフェや着物スタジオなどの店舗が営業している

鎌倉を深掘り

別荘族も愛用した 伝統的工芸品「鎌倉彫」

カツラなどから形成した木地に繊細な文様を彫り、漆を塗って仕上げる



「鎌倉彫」は、13世紀に宋から伝わった法具などの美術工芸品が祖といわれ、鎌倉時代から仏像や仏具などを製作していた仏師たちが、明治時代のニーズに合わせて家具や調度品の製作を始め、現在の鎌倉彫へと発展しました。

その伝統を今に伝える老舗があります。

由比ガ浜通りにある「寸松堂」^{すんしょうどう}は、1936(昭和11)年、彫師・佐藤宗岳^{さとうそうがく}の店舗併用住宅として、市内の大工・西井喜一、正二親子によって建てられました。1階店舗部分のガラス戸、ショーウィンドーなどに近代洋風建築技術が見られますが、全体としては寺院建築と城郭建築を合体させたような建物となっています。頂部に相輪を頂く、笹目町、長谷界隈のランドマークとなっています。

長谷にある「白日堂」^{はくじつどう}は、伊志良不説^{いし らふせつ}の創業。1940(昭和15)年頃に建てられた工房兼住宅です。棧瓦葺き入母屋(一方は切妻)屋根をもつ、城郭風と寺院風が融合した重厚な意匠に加え、鉄平石張りの腰壁付きのショーウィンドーという近代的な要素が相まって、独特な雰囲気を出しています。

江ノ電・和田塚駅そばにある「伝統鎌倉彫事業協同組合・鎌倉彫工芸館」では、鎌倉彫について詳しく知ることができ、また鎌倉彫の体験をすることができます。



寸松堂



白日堂

1938^{しょうわ}(昭和13)年ぼんぼり^{まつり}(雪洞)祭

幻想的な雰囲気にもまれる鎌倉の風物詩

鶴岡八幡宮では、8月の立秋の前日に「夏越祭」、立秋当日に「立秋祭」^{みなもとのさねとも}、源実朝の生誕日の8月9日に「実朝祭」を執り行い、この期間に境内にぼんぼりを掲揚します。夕暮れになると、鎌倉にゆかりのある文化人・著名人が描いた約400点のぼんぼりに灯がとり、境内は幻想的な雰囲気にもまれます。

夏の鎌倉は海水浴客で賑わいましたが、神社仏閣を訪れる人は多くありませんでした。海水浴客に鎌倉の文化にも親しんでもらおうと、鎌倉文士らの協力を仰ぎ、ぼんぼり祭が始まりました。作家の永井龍男は、祭りの様子を作品に描いています。



太鼓橋から上宮まで光の道が広がり、夜まで多くの人でにぎわう

鎌倉を深掘り

鎌倉が熱狂！文士がつくった夏の風物詩「鎌倉カーニバル」

1934(昭和9)年7月、南フランス・ニースの謝肉祭(カーニバル)に感銘を受けた久米正雄^{くめまさお}と、大佛次郎^{おほさらぎじろう}らが中心となり、「第1回鎌倉カーニバル」を開催。戦中～戦後すぐの8年間を除き、1962(昭和37)年まで続いた一大イベントは、毎年その年の巨大な主神をつくり、ともに若宮大路から由比が浜海岸に向けて仮装パレードするもので、龍神、金太郎、オードリー・ヘプバーン、力道山^{りきどうざん}などユニークな主神が祀^{まつ}られました。見物客の数は年々拡大し、鎌倉は全国的に「海の銀座」と呼ばれるようになりました。戦後1947(昭和22)年に復活した際は、ミス・カーニバルや浴衣コンテスト、ダンスをはじめ、さまざまな催しとともにパワーアップ。当時8万人の市に20万人が集まる大盛況になりました。斬新な衣装でパレードを楽しむ横山隆一^{よこやまりゅういち}ら漫画家集団、ミス・カーニバルコンテストの審査をする川端康成^{かわばたやすなり}。何よりも文士自身が楽しむ様子が記録や作品に残るイベントは、鎌倉のまちを明るくし、人々を笑顔にしたのです。



若宮大路のビッグパレード。全国から見物客が押し寄せた

1961(昭和36)年

きゅうかわきたていべつてい わつじ
旧川喜多邸別邸(旧和辻邸)

海外との懸け橋となった映画人の別邸

戦前から戦後にかけて、『自由を我等に』『天井桟敷の人々』『第三の男』ほか数多くのヨーロッパ映画の名作を輸入・配給し、戦後は、国際映画祭を通して日本映画を積極的に海外に紹介した「東和商事」(現在の東宝東和)の創設者・川喜多長政、かしこ夫妻の別邸です。山と黒い板塀に囲まれた^{さんかわらぶ}棧瓦葺き屋根の和風建築は、東京にあった哲学者・和辻哲郎^{わつじてつろう}の住宅を1961(昭和36)年に移築したもので、もとは神奈川・大山の古民家だったそうです。国際人だった夫妻は、この別邸を海外から訪れる映画監督やスターを迎える場として活用しました。東側の母屋は整備され、現在は「鎌倉市川喜多映画記念館」となっています。



内部には土間や居間、書斎などがあり、春と秋に一般公開される



鎌倉を深掘り

“小津調”の記念碑的名作『晩春』

1936(昭和11)年には松竹撮影所が蒲田から大船に移り、映画産業が盛んになった鎌倉。没年まで山ノ内に住んだ小津安二郎^{おづやすじろう}監督は、1949(昭和24)年に『晩春』、1951(昭和26)年に『麦秋』など、鎌倉を舞台とした作品を残しています。なかでも鎌倉に暮らす父と娘の親子愛を描いた『晩春』では、北鎌倉駅や鶴岡八幡宮が登場。独自の“小津調”と呼ばれる映像表現を確立した映画として、国内外から高い評価を得ています。

小津安二郎 1903(明治36)年～1963(昭和38)年
東京出身。1923(大正12)年に松竹キネマ蒲田撮影所に入社し、後に鎌倉へ。
里見弴^{さとみ とん}や大佛次郎^{おほつきじろう}ら鎌倉文士と親しく交友した。



1962^{しょうわ}(昭和37)年

よし や のぶ こ き ねんかん

吉屋信子記念館

鎌倉を代表する女性作家が暮らした家

鎌倉は優れた女性作家も活躍してきましたが、その代表といえるのが、少女小説から家庭小説、『徳川の夫人たち』などの歴史小説まで幅広く活躍した吉屋信子です。東京の喧騒^{けんそう}を逃れ、よりよい執筆環境を求め、吉屋が66歳のときにこの地に居を構えました。閑静な住宅街にある平屋建ての母屋は、近代数寄屋建築の第一人者である吉田五十八^{よしだいそや}が設計したもので、吉屋は「奈良の尼寺のように」と依頼したと伝えられています。現在は鎌倉市に寄贈され、市民の学習施設として親しまれています。また毎年春と秋には一般公開が行われ、当時のままに保存されている書斎や居間、直筆原稿等の展示を見ることができます。



吉屋信子

1896 (明治29)年～
1973 (昭和48)年

断髪、洋装のモダンガールだった吉屋は「少女画報」に連載した「花物語」で、当時の女学生の心を魅了した。少女小説から歴史小説まで常に女性の視点で作品を描いた

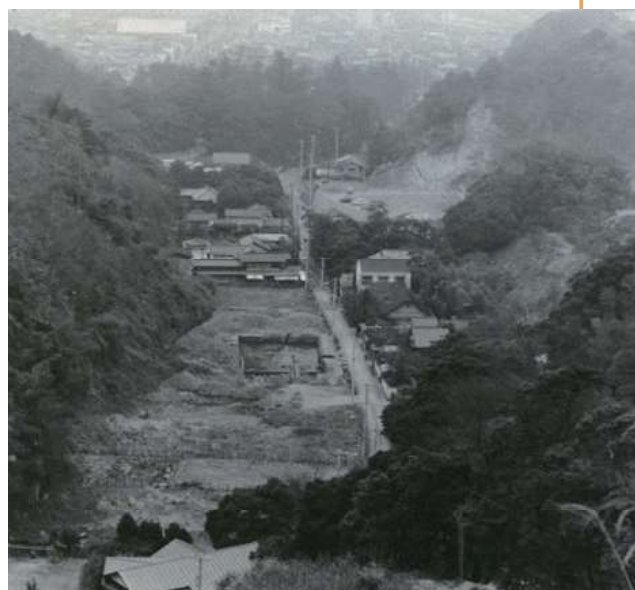


鎌倉を深掘り

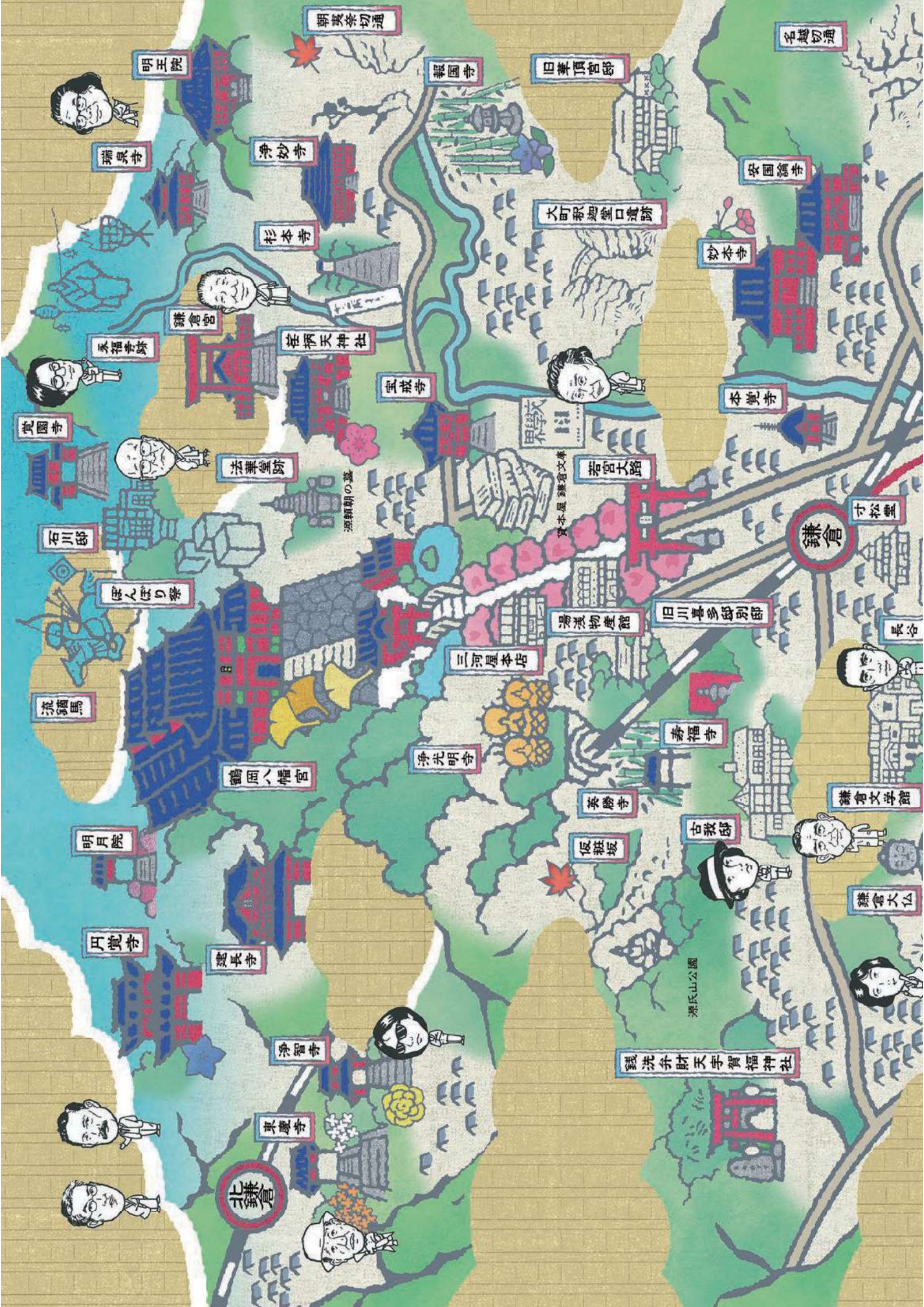
日本初の ナショナル・トラスト運動

高度経済成長を迎えた1964 (昭和39) 年、鶴岡八幡宮裏の御谷^{おやつ}に宅地造成計画が持ち上がりました。これに対して、地元住民を中心に、市民や大佛次郎らの文化人などが、署名や募金など反対運動を推進しました。このとき設立された鎌倉風致保存会が、集まった寄付金で宅地造成予定地の一部を買収し、事業者は計画を断念しました。

この「御谷騒動」は、日本初のナショナル・トラスト運動となりました。この運動が契機となって、1966 (昭和41) 年には「古都保存法 (古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法)」が制定され、鎌倉は乱開発から守られることとなりました。



当時の御谷の森。
鶴岡八幡宮の裏山にあり、重要な史跡が残る



名越切通

旧華頂宮邸

報国寺

朝夷奈切通

明王院

瑞泉寺

浄妙寺

杉本寺

大町釈迦堂口遺跡

安國論寺

妙本寺

鎌倉宮

荏柄天神社

永福寺跡

宝戒寺

梵園寺

法華堂跡

石川邸

ぼんぼり祭

流鏑馬

鶴岡八幡宮

三河屋本店

浄光寺

湯浅物産館

旧川喜多邸別邸

鎌倉

寸松堂

長谷

明月院

円覚寺

建長寺

浄智寺

東慶寺

北鎌倉

銭洗弁財天宇賀福神社

源氏山公園

古教邸

仮粧坂

英勝寺

寿福寺

鎌倉文学館

鎌倉大仏



鎌倉モザイクマップ

※地図の精度を保証するものではありません。

時代を感じる 鎌倉散歩コース

おすすめ コース

二階堂・西御門方面

鎌倉駅東口

バス8分
京急バス4番乗り場
「鎌倉宮(大塔宮)」行き

鎌倉宮(大塔宮)バス停

徒歩8分

覚園寺

徒歩13分

永福寺跡

徒歩7分

瑞泉寺

徒歩11分

鎌倉宮

徒歩5分

荏柄天神社

徒歩5分

法華堂跡

徒歩10分

宝戒寺

徒歩3分

鶴岡八幡宮

徒歩7分

鎌倉駅東口



P24へ

中世の趣を残す境内、薬師堂は見所。
寺僧さんが約50分かけて境内を案内
してくれるツアー式拝観

鎌倉屈指の規模を誇ったといわれる
寺院の跡



P24へ

鎌倉末期～室町時代
の名僧・夢窓疎石が
造った庭園が見所



P31へ

鎌倉幕府滅亡に注力
した護良(もりなが)
親王を祀る



P9へ

日本三古天神、頼朝が
幕府の鬼門の守護神に
定めたとみられる



P25へ

執権北条氏の邸宅跡ともいわれる

おすすめ コース

浄明

鎌倉駅東口

バス10分
京急バス5番乗り場「金沢八景、ハイラ
ンド、鎌倉霊園正門前太刀洗」行き

泉水橋バス停

徒歩4分

明王院

徒歩5分

浄妙寺

徒歩5分

報国寺

徒歩3分

旧華頂宮邸

徒歩7分

杉本寺

徒歩1分

杉本観音バス停

バス7分
京急バス「鎌倉駅」行き

鎌倉駅東口

海と山々に囲まれた自然豊かな鎌倉では、季節を楽しみながら寺院や歴史的遺産を巡ることができます。武家文化が生まれた地は、建物だけでなく、道や美術、工芸にも当時の面影を残しています。歩き慣れた靴を履いて、軽いトレッキング気分で時代の連なりを感じながら、鎌倉散歩をお楽しみください。

寺方面



P16へ

茅葺きの屋根が印象的



P13へ

手入れの行き届いた枯山水は見事



P25へ

孟宗竹の林が有名、
「竹庭の寺」と呼ばれている



P5へ

苔むしてすり減った石段に
長い歴史を感じる

おすすめ コース

源氏山・扇ガ谷方面

鎌倉駅西口

徒歩5分

古我邸

徒歩3分

鎌倉歴史文化交流館

徒歩15分

佐助稲荷神社

徒歩9分

銭洗弁財天宇賀福神社

徒歩8分

葛原岡神社

徒歩20分

仮粧坂

浄光明寺

徒歩4分

英勝寺

徒歩10分

鎌倉駅西口



P33へ

鎌倉三大洋館のひとつ



P15へ

鎌倉の歴史と文化を出土品などを
通して紹介している



P13へ

お金を洗うとご利益があるといわれ
る泉が有名



P19へ



P30へ

4 おすすめ コース

大町・材木座方面

鎌倉駅東口

徒歩 4 分

本覚寺



P28へ

仁王門をくぐると、堂々とした瓦屋根の迫力ある本堂

徒歩 2 分

妙本寺



P20へ

初夏のシャガ、秋には紅葉が見事
事前予約で写経も体験できる

徒歩 11 分

妙法寺

徒歩 2 分

安国論寺



P19へ

裏山には富士見台があり、海と材木座方面のまちが見える

徒歩 10 分

元八幡

徒歩 15 分

光明寺



P17へ

7月にはハスの花が見もの

光明寺バス停

バス 9 分
京急バス「鎌倉駅」行き

鎌倉駅東口

5 おすすめ コース

北

北鎌倉駅東口

徒歩 2 分

円覚寺

徒歩 5 分

東慶寺

徒歩 5 分

浄智寺

徒歩 10 分

建長寺

徒歩 20 分

鶴岡八幡宮

徒歩 15 分

鎌倉駅東口

時代を感じる 鎌倉散歩コース

おすすめ
コース

長谷方面

鎌倉方面



P22へ

仏殿の宝冠釈迦如来坐像



P23へ

七福神のひとつ、布袋像に会える



P21へ

禅宗大寺院 坐禅会もあります



P10へ

鎌倉のシンボリック存在

鎌倉駅西口

徒歩8分

六地藏

徒歩4分

寸松堂

徒歩2分

高浜虚子庵跡

徒歩6分

吉屋信子記念館

(※一般公開は期間限定)

徒歩3分

鎌倉文学館

(※大規模改修のため休館中)

徒歩2分

甘縄神明神社

徒歩7分

鎌倉大仏

徒歩7分

光則寺

徒歩6分

長谷寺

徒歩5分

長谷駅



P39へ

伝統を今に伝える鎌倉彫の老舗



P38へ

みしまゆきお
三島由紀夫も訪れた洋館



P21へ

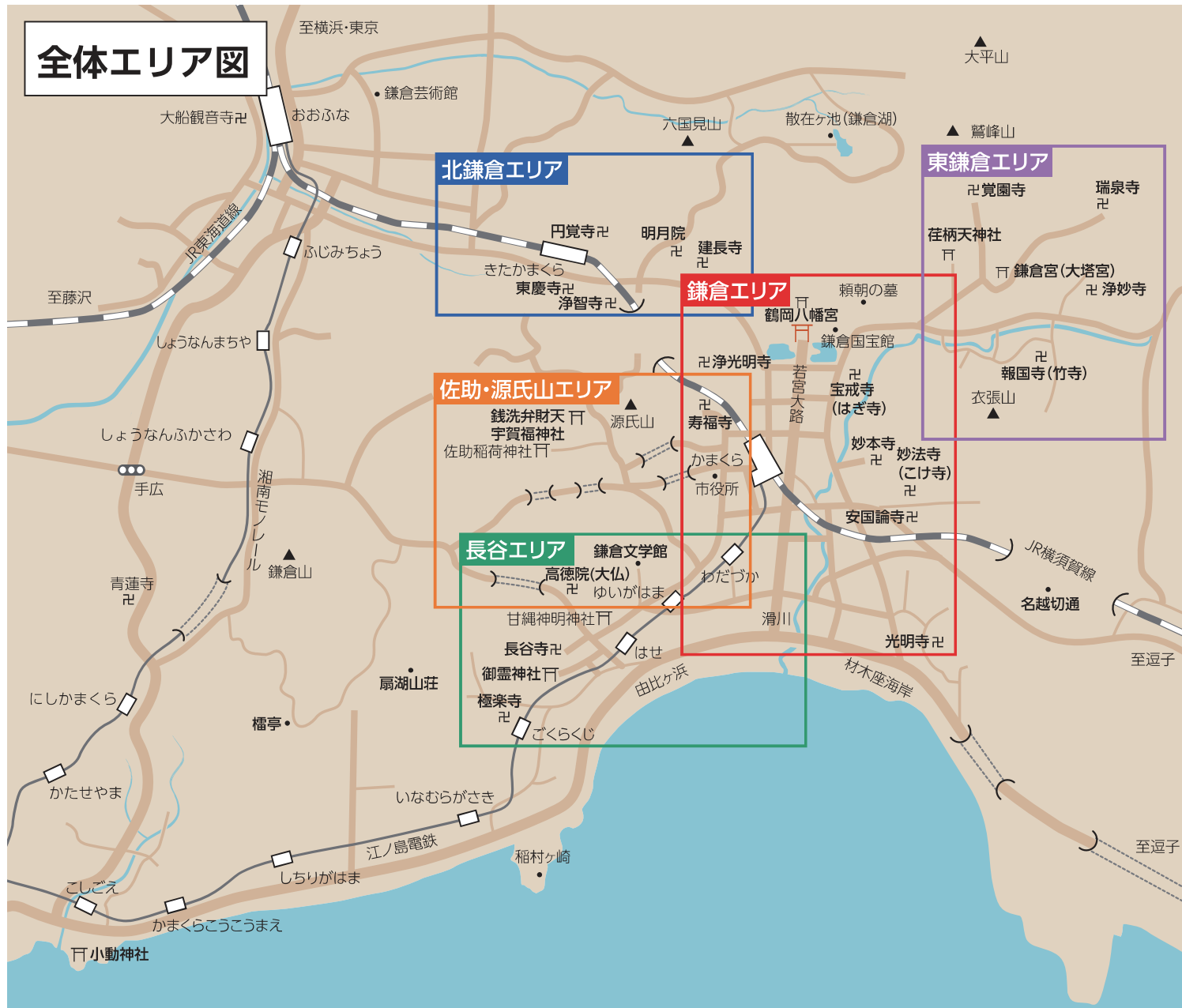
四季折々の鎌倉大仏
与謝野晶子の歌碑があります



P6へ

かわばたやすなり
川端康成が、小説『山の音』に
長谷の情景を描いています

全体エリア図



長谷エリア



北鎌倉エリア



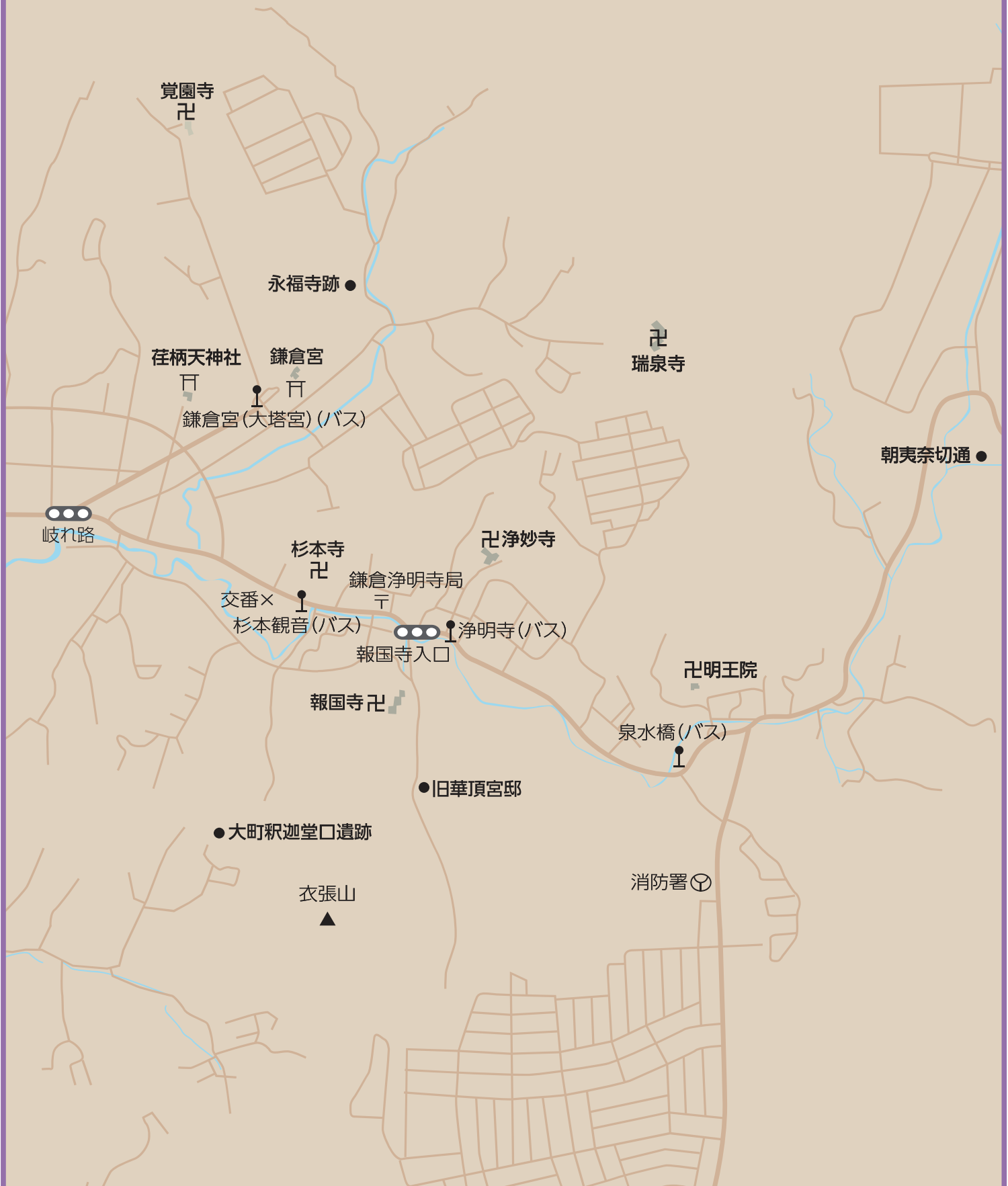
佐助・源氏山エリア



鎌倉エリア



東鎌倉エリア



日本遺産構成文化財一覧

鎌倉の日本遺産ストーリーに位置づけられた有形・無形文化資産を構成文化財と呼んでいます。

あ

朝夷奈切通／あさいなきりどおし [P17]

鎌倉市十二所 ☎ 0467-23-3000(鎌倉市文化財部文化財課)

安国論寺／あんこくろんじ [P19]

鎌倉市大町 4-4-18 ☎ 0467-22-4825
9:00～16:30 月曜休(祝日を除く)

石川邸(旧里見淳邸)／いしかわてい(きゅうさとみとんてい) [P34]

鎌倉市西御門 1-19-3 ☎ 0467-23-7477
※現在は西御門サローネ、喫茶室として公開。
スケジュールはホームページ等で確認を

英勝寺／えいしょうじ [P30]

鎌倉市扇ガ谷 1-16-3 ☎ 0467-22-3534
9:00～16:00 木曜休

荏柄天神社／えがらてんじんしゃ [P9]

鎌倉市二階堂 74 ☎ 0467-25-1772 8:30～16:30

円覚寺／えんがくじ [P22]

鎌倉市山ノ内 409 ☎ 0467-22-0478
8:00～16:30 (12～2月は～16:00)

大町釈迦堂口遺跡／おおまちしゃかどうぐちいせき [P24]

鎌倉市大町 ※通行できません
☎ 0467-23-3000(鎌倉市文化財部文化財課)

か

覚園寺／かくおんじ [P24]

鎌倉市二階堂 421 ☎ 0467-22-1195
10:00～15:00 (1時間ごとに案内、平日12:00を除く)。
4月27日、8月、12月20日～1月7日、雨天、荒天日休

鎌倉宮／かまくらぐう [P31]

鎌倉市二階堂 154 ☎ 0467-22-0318
9:00～16:30 (薪能開催日は14時まで)

鎌倉大仏(銅造阿弥陀如来坐像)／

かまくらだいぶつ(どうぞうあみだにょらいざぞう) [P21]

鎌倉市長谷 4-2-28 ☎ 0467-22-0703
8:00～17:30 (10～3月は～17:00、入場は閉門15分前まで)

鎌倉文学館(旧前田家鎌倉別邸)／

かまくらぶんがくかん(きゅうまえだけかまくらべつてい) [P38]

鎌倉市長谷 1-5-3 ☎ 0467-23-3911
9:00～17:00 (10～2月は～16:30)
月曜休(祝日を除く、12月29日～1月3日、展示替え期間、特別整理期間、5・6・10・11月は不定)

鎌倉彫／かまくらぼり [P39]

鎌倉市由比ガ浜 3-4-7
☎ 0467-23-0154 (伝統鎌倉彫事業協同組合・鎌倉彫工芸館)
火～金曜 9:00～17:00、土曜 9:00～16:00、日曜日・祝日 11:00～16:00
月曜休(祝日の場合は火曜休)

鎌倉名所記／かまくらめいしょき [P30]

旧華頂宮邸／きゅうかちょうのみやてい [P36]

鎌倉市浄明寺 2-6-37
☎ 0467-23-3000 (鎌倉市都市景観部都市景観課)
庭園見学の時間 10:00～16:00 (10～3月は～15:00)
庭園見学は年末年始と月・火(祝日の場合次の平日)休
※建物内部公開の期間は春、秋2回、計4日間

旧神奈川県立近代美術館鎌倉館本館／

きゅうかながわけんりつきんだいびじゅつかんかまくらかんほんかん [P11]

鎌倉市雪ノ下 2-1-53 ☎ 0467-55-9030
※現在は鎌倉文華館 鶴岡ミュージアム
(かまくらぶんかかん つるがおかみゅーじあむ)
10:00～16:30 (入館は～16:00)

旧川喜多邸別邸(旧和辻邸)／

きゅうかわきたていべつてい(きゅうわつじてい) [P41]

鎌倉市雪ノ下 2-2-12
☎ 0467-23-2500 (鎌倉市川喜多映画記念館)
※公開日やイベント時に見学可

旧諸戸邸／きゅうもろとてい [P33]

鎌倉市長谷 1-11-1 ☎ 0467-23-3000 (鎌倉市公的不動産活用課)
※入館できません

仮粧坂／けわいざか [P18]

鎌倉市扇ガ谷
☎ 0467-23-3000 (鎌倉市文化財部文化財課)

建長寺／けんちょうじ [P21]

鎌倉市山ノ内 8 ☎ 0467-22-0981
8:30～16:30

光明寺／こうみょうじ [P17]

鎌倉市材木座 6-17-19 ☎ 0467-22-0603
6:00～17:00 (10月15日～3月31日は7:00～16:00)

古我邸／こがてい [P33]

鎌倉市扇ガ谷 1-7-23 ☎ 0467-22-2011
※現在レストラン、カフェとして営業中
11:00～15:00、17:00～21:00
火曜、第1・3月曜休

極楽寺／ごくらくじ [P20]

鎌倉市極楽寺 3-6-7 ☎ 0467-22-3402
9:00～16:30

小動神社／こゆるぎじんじや [P13]

鎌倉市腰越 2-9-12 ☎ 0467-31-4566

御霊神社／ごりょうじんじや [P6]

鎌倉市坂ノ下 4-9 ☎ 0467-22-3251
収蔵庫 9:00～17:00

さ

寿福寺／じゅふくじ [P15]

鎌倉市扇ガ谷 1-17-7 ☎ 0467-22-6607
※拝観は中門まで

浄光明寺／じょうこうみょうじ [P19]

鎌倉市扇ガ谷 2-12-1 ☎ 0467-22-1359
9:00～16:00
(阿弥陀堂と収蔵庫は木・土・日曜日・祝日の10:00～12:00、
13:00～16:00のみ公開)
無休(ただし、阿弥陀堂と収蔵庫は雨天、8月、年末年始休)

成就院／じょうじゅいん [P16]

鎌倉市極楽寺 1-1-5 ☎ 0467-22-3401
8:00～17:00 (11～2月は～16:30)

淨智寺／じょうちじ [P23]

鎌倉市山ノ内 1402 ☎ 0467-22-3943
9:00～16:30

浄妙寺／じょうみょうじ [P13]

鎌倉市浄明寺 3-8-31 ☎ 0467-22-2818
9:00～16:30

神霊教鎌倉錬成場霊源閣／

しんれいきょうかまくられんせいじょうれいげんかく [P34]

鎌倉市長谷 3-2-11
※毎秋、一般公開あり

瑞泉寺／ずいせんじ [P24]

鎌倉市二階堂 710 ☎ 0467-22-1191
9:00～17:00 (受付は～16:30)

杉本寺／すぎもとでら [P5]

鎌倉市二階堂 903 ☎ 0467-22-3463
8:00～16:30 (受付は～16:15)

寸松堂／すんしょうどう [P39]

鎌倉市笹目町 5-1 ☎ 0467-22-0708
10:00～17:00 不定休

銭洗弁財天宇賀福神社／
ぜにあらいべんざいてんうがふくじんじゃ [P13]
鎌倉市佐助2-25-16 ☎ 0467-25-1081
8:00～16:30

扇湖山荘／せんこさんそう [P37]
鎌倉市鎌倉山1-21-1
☎ 0467-23-3000
(鎌倉市都市景観部都市景観課・都市整備部公園課)
※年2回程度公開

た 大仏切通／だいぶつきりどおし [P18]
鎌倉市長谷 ☎ 0467-23-3000 (鎌倉市文化財部文化財課)

鶴岡八幡宮／つるがおかはちまんぐう [P10]
鎌倉市雪ノ下2-1-31 ☎ 0467-22-0315
6:00～20:30 (宝物殿は8:30～16:00、9月15日休)

東慶寺／とうけいじ [P23]
鎌倉市山ノ内1367 ☎ 0467-22-1663
8:30～16:30 (10～3月は～16:00)、
水月観音菩薩像の拝観は事前予約制(詳しくはHPで要確認)、
松岡宝蔵は9:00～16:00 (松岡宝蔵は月曜休、祝日は開館)

な 名越切通／なごえきりどおし [P18]
鎌倉市大町
☎ 0467-23-3000 (鎌倉市文化財部文化財課)

は 白日堂／はくじつどう [P39]
鎌倉市長谷3-12-19 ☎ 0467-22-3207
10:00～18:30 不定休

長谷寺／はせでら [P6]
鎌倉市長谷3-11-2 ☎ 0467-22-6300
8:00～17:00 (10～2月は～16:30)、
観音ミュージアムは9:00～16:00 不定休

宝戒寺／ほうかいじ [P25]
鎌倉市小町3-5-22 ☎ 0467-22-5512
9:00～16:30 (10月～3月は～16:00)

報国寺／ほうこくじ [P25]
鎌倉市浄明寺2-7-4 ☎ 0467-22-0762
9:00～16:00 12月29日～1月3日休

法華堂跡(源頼朝墓・北条義時墓)／
ほっけどうあと(みなもとのもりとものはか・ほうじょうよしときのはか) [P14]
鎌倉市西御門2
☎ 0467-23-3000 (鎌倉市文化財部文化財課)

本覚寺／ほんがくじ [P28]
鎌倉市小町1-12-12 ☎ 0467-22-0490 9:00～16:00

ぼんぼり(雪洞)祭／ぼんぼりまつり [P40]
鎌倉市雪ノ下2-1-31 (鶴岡八幡宮)
☎ 0467-22-0315 8月の立秋の前日から9日まで

ま 三河屋本店／みかわやほんてん [P35]
鎌倉市雪ノ下1-9-23
☎ 0467-22-0024 9:00～19:00 火曜休

明王院／みょうおういん [P16]
鎌倉市十二所32 ☎ 0467-25-0416 9:00～16:00

妙本寺／みょうほんじ [P20]
鎌倉市大町1-15-1 ☎ 0467-22-0777 9:00～16:30

明月院／めいげついん [P28]
鎌倉市山ノ内189 ☎ 0467-24-3437
9:00～16:00 (6月は8:30～17:00)

や 流鏑馬／やぶさめ [P10]
鎌倉市雪ノ下2-1-31 (鶴岡八幡宮)
☎ 0467-22-0315 (鶴岡八幡宮、9月・10月)
☎ 0467-23-3050 (鎌倉市観光協会、4月)
4月第3日曜、9月16日、10月第1日曜

湯浅物産館／ゆあさぶっさんかん [P39]
鎌倉市雪ノ下1-9-27
☎ 0467-22-0472 10:00～18:00

永福寺跡／ようふくじあと [P15]
鎌倉市二階堂178
☎ 0467-23-3000 (鎌倉市文化財部文化財課)

吉屋信子記念館／よしやのぶこきねんかん [P42]
鎌倉市長谷1-3-6
☎ 0467-25-2030 (鎌倉市生涯学習センター) 10:00～16:00
※5・6・10・11月の1～3日、4・5・6・10・11月の土曜、5・6月の日曜、
ゴールデンウィークに公開。公開日以外は学習施設として利用可。

ら 橘亭／らいてい [P36]
鎌倉市鎌倉山高砂 ☎ 0467-32-5656
※現在蕎麦・会席料理店として営業中
庭園散策及び蕎麦処は11:00～夕方、
会席料理は11:00～20:30 (17:00以降は要予約)
休／1月1日～3日、7月最終の週月～木曜休

わ 若宮大路／わかみやおおじ [P10]

「いざ、鎌倉」～歴史と文化が描くモザイク画のまちへ～

監修・協力

宗教法人長谷寺学芸員 三浦 浩樹
鎌倉文学館 館長 富岡 幸一郎
鎌倉市中央図書館 近代史資料室担当 平田 恵美

以上のほか、構成文化財の所有者など
多くの方にご協力いただきました。

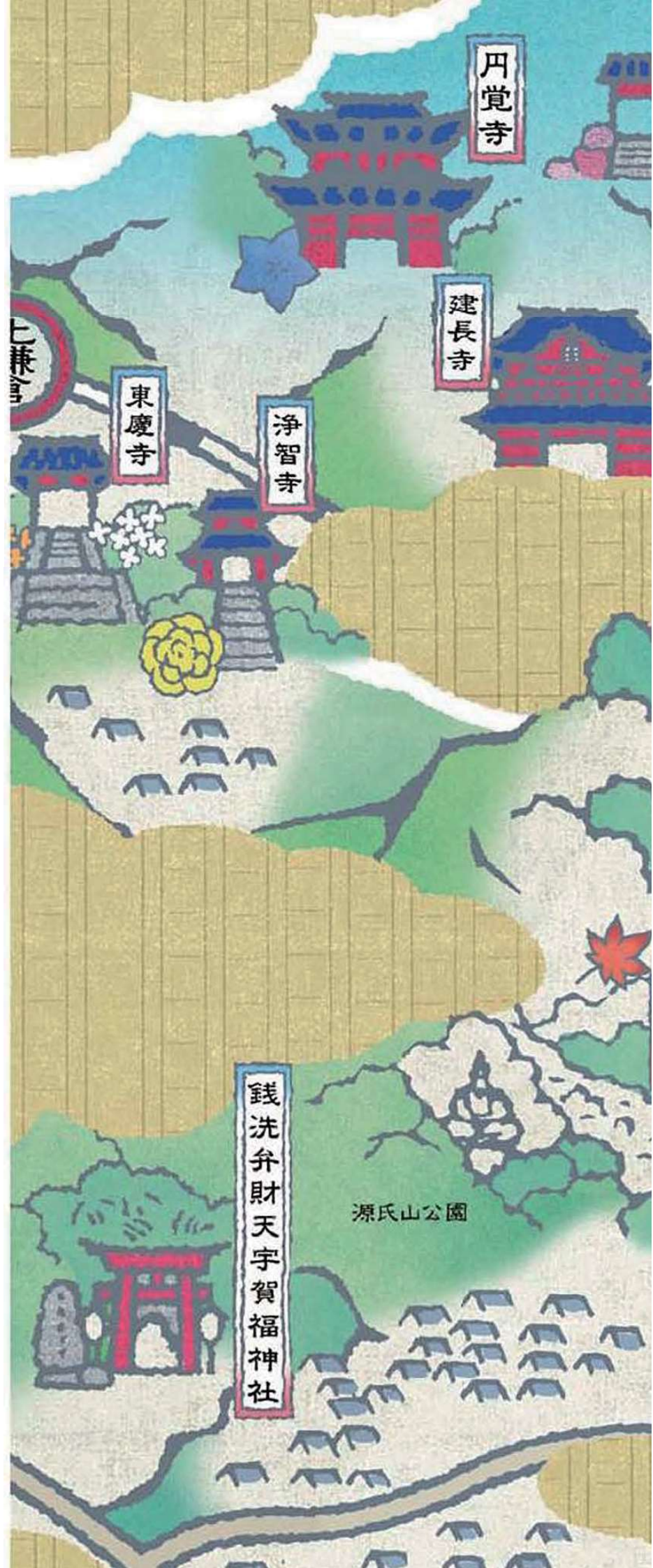
写真提供

鶴岡八幡宮
建長寺
東慶寺
長谷寺
宝戒寺
明王院
明月院
光明寺
鎌倉宮
神霊教
鎌倉文華館 鶴岡ミュージアム
神奈川県立近代美術館
鎌倉市観光協会
鎌倉文学館
鎌倉市中央図書館
鎌倉国宝館

発行：日本遺産いざ鎌倉協議会
(事務局: 鎌倉市役所内)
〒248-8686
鎌倉市御成町18-10
TEL.0467-23-3000

イラストレーション：アサリマユミ

撮影：藤田 浩司(Y's office)



JAPAN HERITAGE

日本遺産